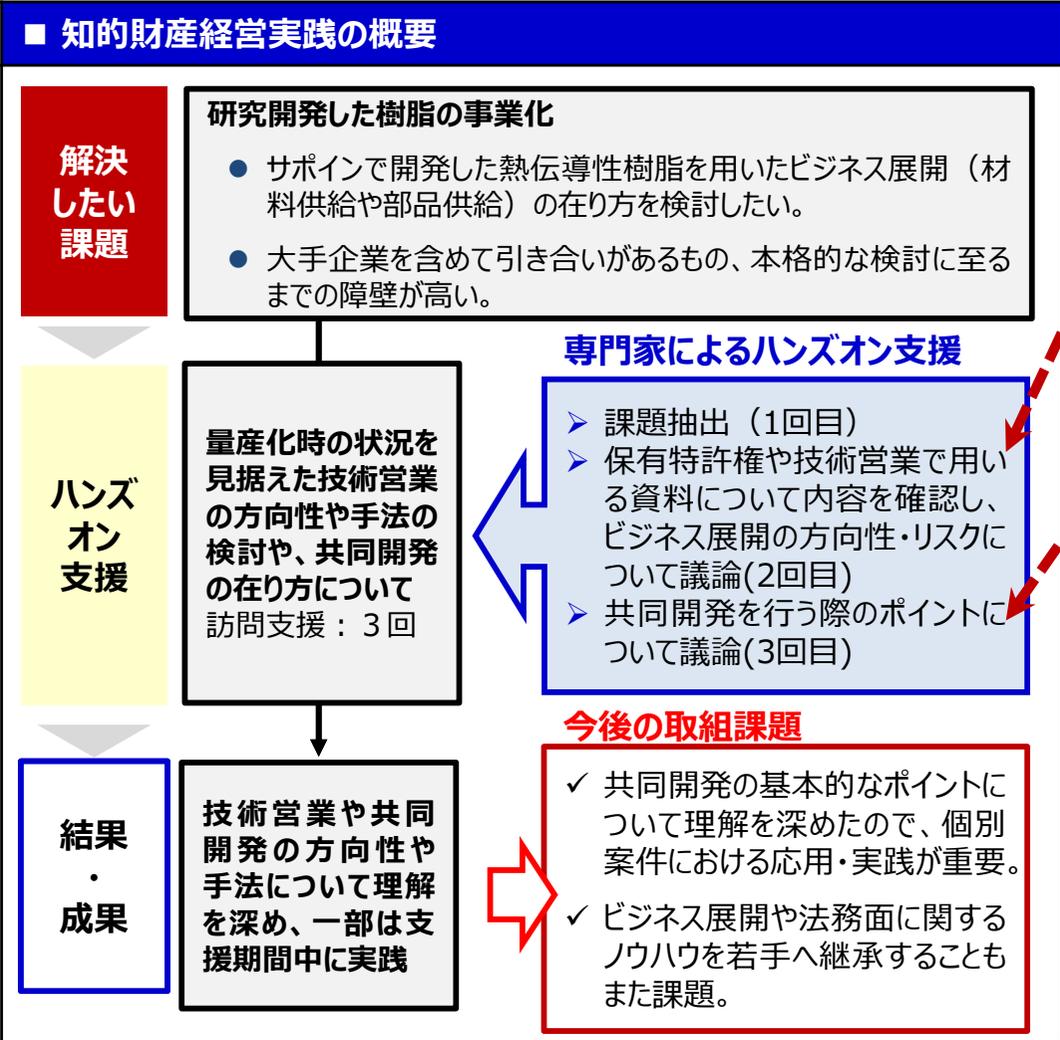


事例4：株式会社高木化学研究所（サポイン事業で開発した素材の事業化に向けた方向性検討）



■ 取組の詳細

- サポイン事業で開発を進めてきた熱伝導性樹脂が、事業化の段階にある。可能な範囲で実施できる事項については様々な対応を行ってきているものの、ビジネスパートナー（≒共同開発先）と本格的な契約締結に至るまでの障壁が高い。
- 特許権・ノウハウの内容や、量産化シナリオを踏まえ、技術営業（≒共同開発）の方向性や手法について議論を深めた。共同開発契約のポイントについても、併せて助言を実施。
- ビジネスパートナーの担当者や社内稟議等を意識した、コミュニケーションのツールや在り方（技術の見せ方や、情報共有の在り方等）について助言を実施。一部、支援期間中に開催された展示会で、助言内容を実践。



株式会社 高木化学研究所
工学と化学の融合が、未来をつくる



■ 企業の声

中小企業が今後生き残っていくためには研究開発の継続と、そこで生まれたものをいかに守っていくかが重要である。研究開発したものを事業化するにあたっては、開発資金を早期回収すべき視点と各パートナーと長期的な視点で良い関係を構築する必要がある。当該支援事業によって、新規の営業/事業活動における難しい判断を迫られる可能性を事前想定できるようになり、共同開発に係るポイントの理解が深まった。

■ 企業概要

業種	輸送機器部品製造、合成繊維製造、樹脂成形				
住所	愛知県岡崎市	URL	http://www.takagi-kagaku.co.jp/		
創業	1949年4月	従業員数	128人	資本金	3,000万円

■ 支援専門家（回数）

支援コーディネータ	1名
中小企業診断士	3名
同行専門家	2名
弁理士	2名